

はじめに

2003 年は、アジア地域をはじめとした世界の各地域が、深刻な自然災害を経験した年となりました。イランのバム地震では世界最大の死者数が記録され、中国で発生した洪水では最大被災者数、韓国の台風マエミでは最大の経済損失額が報告されました。アフリカでは、アルジェリアにおいて大地震が発生し、多大な人的損失と経済被害がもたらされました。さらに、ヨーロッパにおいては、異常な熱波により、多くの人命が奪われました。アメリカにおいては、深刻な暴風が発生し、多くの人々が被害を受けました。このような出来事により、各国の防災担当者や政策立案者たちは、総合的な防災政策（TDRM）を通じて、これらの地域での脆弱性軽減の必要性を実感させられました。

自然災害の度重なる発生とその規模は、人間社会や世界経済に深刻な影響を及ぼすことが明らかになっています。災害が経済、環境、国家の政策課題といった社会・文化的要素に弊害をもたらしている事実は無視することはできません。また、自然災害の頻度やその深刻さは、世界各地で増加しています。開発途上国では、自然ハザードと関連した経済損失の急激な増加が、国の発展の妨げとなっています。この状況はさらに、地域のリスク移転システムの脆弱さにより悪化しています。それ故に、自然災害によって生じた壊滅的な被害は、経済的な不安定さを抱えている開発途上国の競争力に負の影響を与えます。過去 100 年の統計を見ると、アジアは世界の中でもっとも災害による被害を受けやすい地域ということが明らかで、全世界における被災者数の約 90% を占め、死者数、経済的損失額は共に 50% を超えています。従って、開発メカニズムの観点から毎年の災害傾向を観察し、過去の災害を分析することは大変重要な作業となっています。

世界、そして、各地域において自然災害により生じる影響への対策や、効果的な防災のメカニズムを構築するための社会・経済的フレームワークを推進、強化するために、2003 年における自然災害の発生傾向を分析する本冊子を発行する運びとなりました。この冊子は、政策立案者、研究者、学者のみならず、開発活動に携わる草の根レベルでの人々にも利用していただければと思っています。このデータブックにより、TDRM の取り組みが、世界の持続可能な開発のための一助になればと切に願っております。

2004 年 3 月

アジア防災センター
所長 西川 智